

7

35

東泉園著

八	三	一	七		
冊	立	架	函	屬	類

深間内是譯述
千河孝貫一校印

道理之世

七

17-35

自序

夫人ハ欺詐ト謬誤ヲ見ハカテ竭シテ之ヲ辨明
シ矯正スルヲ以テ務メトスヘシ尚ホ且此務ヲ
為スヘキ材ハ各人天然ニ賦與セラレタル者ナ
リ而シテ此ノ如キ材能ヲ賦與セラレタル人ノ
中ニ於テ或ハ之ヲ為スヲ欲セサル者アリ或ハ
之ヲ為スヘキ勇氣ナキ者有リ○惟ルニ舊約全
書中耶蘇降生ノ事ヲ預言セシ者ナリト稱スル
語ハ耶蘇教諸國ヲ震動セシコト令ニ一千有餘
年ナリ而シテ數百千回之ヲ講説シ又人ヲシテ

之ヲ信セシメニカ為メニ著ス所ノ書其夥キ汗
 牛充棟ス○本篇ニ於テ予舊約書中ヨリ引キタ
 ル新約書中ノ文ノ耶蘇ニ關スル預言ヲ考索セ
 リ而シテ予舊約書中耶蘇ニ就テ預言セシ者ア
 ルヲ見ス而シテ將來ヲ前知スルカ如キ事ハ決
 シテアルヘキ理ナキヲ知ル猶太國民ノ事情ニ
 係ル舊約書ノ文ハ總テ當時ノ情勢ニ綴テ記ス
 ル者ニテ爾後數百年ヲ經テ起ルヘキ事實ヲ前
 言セル者ニアラス而シテ予其文ニ就テ由テ起
 ル所ハ何等ノ事情ナルヤヲ知レリ予自ラ論ス

ル所ノ章或ハ原文ヲ掲ケ而シテ其文ハ總テ耶
 蘇ヲ預言セシ者ニアラサルヲ證シ一步モ舊新
 兩約書ノ外ニ出スレテ一々之ヲ駁論セリ○世
 人ノ耶蘇教ヲ信スルハ根據スル所ナクモテ之
 ヲ盲信シ其盲信ノ先入シテ主トナルヤ自ラ之
 ニ習慣シテ竟ニ實ヲ失ヒ表面ノミノ虚飾ノ信
 ト化スル者ナリ若シ人或ハ習慣ニ由リ或ハ時
 様ヲ趨ヒ自ラ信セサル者ヲモ信スルカ如クニ
 其信スル所ノ理果シテ如何ヲ問ハサルハ是自
 ラ欺キ人ヲ欺ク者ナリ徳義ノ正ヲ失スル孰カ

焉ヨリ甚シカラシテ其人タル已ニ信義ヲ失セシ人ナリ然ラハ則チ此ノ如キ人ノ精神ハ假令他人ニ害ヲ加フルノ思ヲ挾マサルモ自ラ顧ミテ疚カラサルヤ不ヤヲ慮ルノ感覺ヲ失スルニ至リシ者ナリ僧徒ノ或ハ集會シ或ハ説教シテ其法教ヲ銜賣スルニ欺罔ト偽詐ヲ逞フスル者即チ本ト此表面ヲ飾ル詭譎ノ風儀ヨリ生シ来ル邪行ナリ而シテ其中心已ニ正シカラサル豈平常守ル所アリ恐ル、所アラニヤ僅ニ宗内ノ規約ニ従フ外其精神中品行ヲ正フスヘキ

物在リ其身心ヲ制限スル者アルコトナシ○傳道ノ教徒説テ曰ク天國永世ノ樂ヲ受クルノ本ハ耶蘇ヲ信スルニ在リ又曰ク耶蘇ヲ信スル者ハ罪ヲ犯スモ救ハル、ヲ得ヘシト是第一ニ人ニ罪惡ヲ獎ムル者ニテ例ヘハ父ノ子ニ對シテ予汝チノ負債ヲ償フヘケレハ爾チ隨意ニ財ヲ糜スヘシト云フニ同レ第二ニ是等ノ人ノ説ク所ノ教ハ真ノ教法ニアラス新約書ハ信ニ輕忽ナル者ヲ待ツニ耶蘇ニ關スル舊約書中ノ預言ヲ以テ證トセリ若シ舊約書中耶蘇ノコトヲ預

言セシ者アラハ新約書ハニイシ及ヒレオジシ
エノ會議ニ作りタル偽造ノ書ニシテ之ニ根柢
スル信心ハ不正即チ邪曲ナラサルヲ得ス
ニイシレオジシエノ會議ハ耶蘇生レシ後チ
凡ソ三百五十年ヲ經テアリシコトナリ而シ
テ新約書ハ此時投票ヲ以テ撰定セリ其投票
ノ方法ハ方今一般ニ行ハル、者ト異ナルナ
シ
教師座ニ升リ衆ニ告ケテ曰ク上帝ハスヘテ未
來人民ノ救フヘキ者ト罰スヘキ者トヲ預メ選

擇レテ既ニ之ヲ定ムト若シ真ニ如此ナラハ天
ニ至テ審判ヲ受クルノ日ハ既ニ過キタルナリ
故ニ如此教ヲ聞キ且信スルハ實ニ無益ナリ寧
口是ヨリ要用ナル産業ヲ營ニ生計ヲ求ムルニ
如カス○又此教ハ前般ノ如クニ人ノ精神ヲ腐
爛セシムル風習アリ若シ人アリ其生ル、前ニ
既ニ罰スヘキ定命アラハ其教ヲ信スルモ益ナ
カラン若シ又救フヘキ命アル人ナラハ之ヲ信
スルト否トヲ問ハスレテ必ス救ハル、コトヲ
得ヘシ如此説ハ到底人間ノ倫理ヲ破壊スル者

ナリ此ノ如キ教ヲ聽ク暇アラハ寧ロ鋤ヲ把テ
 耕耨スルニ如カス○予曾テ邦制論ヲ撰述シテ
 予カ趣旨ト予カ素志トヲ以テ予カ思想ヲ世人
 ニ示シ以テ人民ノ君主專裁ノ政治ニ抑壓セラ
 レサルコトヲ希望セリ故ニ今宗教ヲ論スルノ
 主意モ予亦務メテ神ノ人ニ賦與シタル正理ニ
 循ツテ後人偽造ノ教阱ニ陷入スヘカラサル所
 以テ陳ヘ人ヲシテ曉ル所アラシメントス故ニ
 神ノ明德ト神ノ慈惠トヲ以テ人ニ諭シ神ノ嘿
 示ヲ口實トシタル造説ノ為メニ至貴至尊ノ精

神ヲ束縛セララル、コトナク深ク造物者ノ純善
 無瑕ナルヲ信シ且之ヲ研究スルノ志氣ヲ鞭起
 センコトヲ希望スルノミ

道理之世卷七

深間内 基 譯述
干河岸 貫一 校正

後編

○序論

書中舊約書ノ預言ト耶蘇ノ事蹟ニ關係スル者
ニアリ其一ヲ馬太馬可路加約翰ノ四傳トシ其
一ヲ翻譯者及ヒ注解者ノ想像ヲ以テ預言ト稱
シ舊約書ニ於ケル如ク種々ノ題號ヲ命セシ書

トス是等ノ書ニ就テハ日晷ト筆墨ヲ費スヘキ
價直アル者至テ稀ナリ故ニ今ハ專ラ四傳ヲ主
トシテ論セントス若シ予カ是ヲ以テ舊約書ヨ
リ引ク所ノ文ハ真ニ耶蘇ヲ預言セシ者ナリト
示ストキハ此書即チ四人ノ使徒ノ四傳ヲ記セ
レ者ナルカ或ハ後代ノ翻譯者或ハ耶蘇宗徒ノ
偽造ナルヤヲ辨論スルハ全ク無用ニ屬スヘシ
而シテ今予カ論スル所ニ就テ其實ナルヲ證ス
ヘキ者ハ他ナシ即チ此書ハ作者ノ想像ヲ以テ
記シタル者ナリ

○馬太傳之論

予先ツ聖馬太ノ教書ト稱スル者ヲ論セン即チ
其第一章第十八節ニ曰ク耶蘇基督ノ生ルヤ
其事左ノ如シ母馬利亞約瑟ノ為メニ聘セラレ
未タ婚セス聖神ニ感シテ孕ムト是太夕速カナ
ルニ過キタリ何トナレハ本節ノ言ヲ以テ次節
ノ言ヲ所ト符合セシメントセハ其母ノ孕ミタ
ルヲ視シト云フノミニシテ他ノコトヲ記スヘ
カラス即チ次節ニ曰ク其夫約瑟ハ義人ナリ顯
ハニ之ヲ辱ムルヲ欲セスシテ私カニ之ヲ休メ

ント欲ス此文ニテ見レハ馬利亞ノ子ヲ孕ムニ
 及ニテ己ノ之ヲ知ルコトナカリシト云ノ三更
 ニ他ノ事ナシ○又同章第二十節ヨリ第五節ニ
 至ルニ曰ク約瑟思念ノ間（即チ私カニ其婦ヲ
 去ランカ或ハ之ヲ顯辱センカラ考ルトキ）使
 者夢ニ見ハレテ曰ク大關ノ裔約瑟其レ爾チノ
 妻馬利亞ヲ取り以テ歸ゲ疑フコト勿レ蓋シ孕
 ム所ハ者ハ聖神ニ感スルナリ彼レ必ス子ヲ生
 ミ名ケテ耶蘇ト曰ハシ以テ將サニ其民ヲ罪惡
 ハ中ニ救ハントス○茲ニ記スル所ニ就テ其事

ノ可否ヲ論スル前ニ此文ハ全ク夢ノ記ニシテ
 取テ確證トスヘキ者ナキコトニ著意スヘシ夫
 夢ハ自ラ之ヲ夢ミタル者ノミニシテ他ニ見ル
 者アルヘカラス故ニ予ハ約瑟カ（若シ約瑟ト
 云フ人アリシトキハ）此ノ如キ夢ヲ視ルト否
 トヲ問ハス何トナレハ假令彼レハ此ノ如キ夢
 ヲ感得セシコトアルモ一トシテ證トスヘキ者
 ナキ故ナリ精神ノ夢ムルヤ頗ル淆雜ニシテ其
 想像ニ得ヘキ所ノ形情ハ總テ之ヲ見サルコト
 ナシ夢境ニ入テ何等ノ事ヨリ何等ノ者ヲ想像

〇何等ノ事ヲ見聞スルモ共ニ飄忽タル想像ヨ
 リ幻出スル者ナルノ三故ニ約瑟ノ夢ニシハ我
 人ニ於テ一ノ關係ナシ加之予ハ自ラ夢ムルト
 モ敢テ之ヲ信シ之ヲ恃ムヘキノ理ナシ而ルヲ
 況ンヤ他人ノ夢ヲ信スルトキハ實ニ之ヲ輕躁
 ト云ハンカ將夕之ヲ白痴ト謂ハンカ〇此ニ次
 ク所ハ本傳ヲ記セシ人ノ語ナリ曰ク是ノ如キ
 ハ(如是トハ總テ前ノ馬利亞ノ孕ミタルコト
 ト約瑟ノ夢ミタルトヲ指ス)神ハ先知ニ托レ
 テ言フ所應アリ〇曰ク處女アリ孕ムテ子ヲ生

三人其名ヲ以馬内利ト稱セン譯スレハ即チ上
 帝我レヲ偕ニス〇以賽亞書ノ第七章第十四節
 ニ此事アリ本傳ノ作者其文ヲ以テ人ヲレテ是
 耶蘇降生ノ事ヲ預言セシナリト信セシメント
 欲ス然リト雖トモ予敢テ之ヲ信セス予其決シ
 テ信スヘカラサル所以ヲ示サント欲ス然ラハ
 則チ先ツ以賽亞カ此ノ如キ語ヲナセシハ果シ
 テ何ノ為ナルヤヲ領解セハ看官容易ク耶蘇ノ
 事ヲ預言セシ者ニアラサルヲ知り且其言ノ毫
 モ耶蘇及ヒ耶蘇ノ時代ノ事ニ關係ナキヲ知ル

ヘシ夫耶蘇ノ生レシハ以賽亞ニ後クル、コト
凡ソ七百年ナリ今次下ニ於テ以賽亞書ノ文ノ
顛末ヲ陳ヘン○所囉門王ノ薨スルニ及テ猶太
分テ二箇ノ王國トナル一ヲ猶太ト名ケ耶路撒
冷ヲ以テ首府トシ一ヲ以色列ト名ケ其首府ヲ
撒馬利亞ト稱セリ猶太王ハ大關ノ系統ヲ繼ク
者ニシテ以色列王ハ掃羅ノ裔ナリ此二國相競
テ屢戦争アリ○當時亞哈士ハ猶太王ノ位ニ在
リ（以賽亞ノ時ナリ）以色列王比迦亞蘭王哩
汎ト咸モニ猶太王亞哈士ヲ撃タント欲シ軍ヲ

進メテ耶路撒冷ニ至ル此ニ於テ亞哈士王其臣
庶ト共ニ大ニ恐怖ス以賽亞書第七章第二節ニ
君臣其心揺々トシテ風木ノ如シト云ヘリ○此
時以賽亞亞哈士ニ謂テ曰ク神云フ汝チカ敵ノ
二王其國必ス永續セスト而シテ此言ヲ保證セ
シ為メニ（是レ其言ノ實ニ及スルヲ以テナリ
）亞哈士ニ神ノ異蹟ヲ顯ハシテ徵證トスルヲ
求ムルコトヲ勸ム亞哈士之ヲ欲セスシテ即チ
曰ク我レ神ヲ試ムルヲ敢テセスト此ニ於テ以
賽亞止ムヲ得ス神ヲ口實トシテ曰ク第十我カ

主必ス異蹟ヲ以テ爾チニ示サニ將サニ處女アリ
 懷妊シテ子ヲ生マントス人其名ヲ稱シテ以
 馬内利トセシ彼レ酪ヲ食ヒ蜜ヲ食フ其知識已
 ニ啓クルニ迨ヒ以テ善惡ヲ別タニ其年華未タ
 富マス明睿未ク開ケタルノ日爾チカ懼ル所
 ハ二王ハ其國必ス墟トナラント○此文中以賽
 亞ノ語ニ證トスル所ノ者一アリ一ハ子ノ生ル
 事又其一ハ生レテ後チニ期スル所ノ時ナリ
 即チ其子ノ生レテ未タ善惡ヲ辨別スヘキ知識
 ノ開ケサル前ト云時是ナリ○是ニ由テ之ノ觀

レハ以賽亞ノ亞哈士ニ示ス證徴トスル者ハ未
 タ其兵戈ヲ交ヘサル前ナリスヘテ兆トスヘキ
 者ハ未タ其事ノアラサル前ニ在ラサルヘカラ
 ス例ヘハ雨ノ徴ハ未タ雨ノ降ラサル前ニ在テ
 見ルヘク若シ雨露レテ後チ此雨ノ將サニ降ラ
 ントスル徴アリシト云ハ、笑フヘキ事ナルカ
 如シ○以賽亞ハ二王ニ勝タシカ為メニ自ラ死
 後七百年ヲ經テ其子ノ生レテ其未タ善惡ヲ簡
 別ズル知識ナキ前ト云々シテ亞哈士カ其且夕
 ニ切迫スル所ノ家國ノ危難ヲ遁ルヘキノ徴ト

セリト云ハ、豈捧腹絶倒スヘギ談ナラスヤ○
 然ルニ其事實ハ全ク然ラス以賽亞カ證徴トセ
 シハ即チ己レノ子ナリ此時彼レカ妻ト妾ト己
 ニ孕メルナリ何トナレハ第八章二節ニ謂ヘル
 コトアリ曰ク我レ祭司烏利亞及ヒ耶庇哩家ノ
 子撒伽利亞ニ請フテ確證トス我レ妻ト寢テ一
 ヒ索メテ男ヲ得タリ又同章第十八節ニ曰ク我
 賜ハ所ハ子ト俱ニ在ル耶和華我儕ヲシテ之カ
 兆ヲ為シ以テ以色列ノ族ニ示サシム○此以賽
 亞書ニ於テ處女ト譯スル語ハ希伯來語ノ處女

ノ意ト異ナルニ著意スルヲ以テ要トス即チ處
 女トハコ、一少婦ト云意ナリ又翻譯シテ時ヲ
 誤ル以賽亞書第七章ノ第十四節ニ處女ノ言ア
 リ之ヲ英ニ譯スレハ即チ少婦トナル少婦ノ孕
 ミテ分娩シテ子ヲ生ムハ是即チ現在ノ時ヲ指
 ス事トナル其亞哈士ノ為メニ證スル所ノ男兒
 ノ生レニ事實ト譯スル所ノ文章ト符合スヘシ
 然ルニ翻譯者豈ニ其實ハ七百年ヲ經テ子ノ生
 ルヘキコトヲ預言セシナリトシテ世ヲ欺クヲ
 得ンヤ耶蘇ノ宗徒ハ翻譯ヲ以テ原書ノ意ヲ誤

リ以賽亞ヲシテ少婦ノ孕ムテ子ヲ生ムト云ヒ
 シヲ處女孕ムテ子ヲ生ムト云ヒシコトトセリ
 然レトモ未タ嘗テ意ヲ茲ニ注カサル人ハ前ニ
 掲クル以賽亞書ノ第七章及ヒ第八章ヲ讀テ此
 文ハ耶蘇ノ生ル、コトヲ預言セシ者ニ非ルコ
 トヲ驗知スヘキヲ要ス予又進ムテ本傳ノ舊約
 書ヲ引キ耶蘇ノ事ヲ預言セシ者トスル第二條
 ニ論及セン○本傳第二章第二節曰希律王ノ時
 耶蘇既ニ猶太ノ伯特ニ生マル博士數人アリ
 東方ヨリ耶路撒冷ニ至テ曰ク生レテ猶太人ハ

王トナル者安クニカ在ル我レ東方ニ在リ其星
 ヲ見ル故ニ來テ之ヲ拜スト希律聞テ懼ル耶路
 撒冷ヲ舉ケテ皆然リ乃チ祭司諸長民間ノ士子
 ヲ召シ問テ曰ク耶蘇當ニ何レノ處ニカ生ルヘ
 キ僉ナ曰ク猶太ノ伯利恒ナリ昔シ先知載チ曰
 ク猶太ノ地伯利恒乎猶太ノ郡中ニ在リ爾チ最
 小ノ者ニアラス蓋シ將サニ爾チニ君タル者
 ニ出テ以テ我カ以色列ノ民ヲ牧スルコトアラ
 ントス此文ハ米迦書第五章第二節ニ出タリ曰
 テ卑微ニク出テ我レハニ代テ以色列ハ民ヲ牧
 セン

ト ○予晝間星ヲ見シコトノ恠ムヘキト自ラ来
 テ耶路撒冷ニ在リナカラ東方ニ在テ其星ヲ見
 ルト云フ言ノ齟齬セシ者ナルヲ注意セリ蓋シ
 夫此ノ如キアリ又此ノ如キ事ヲ以テ人ヲ誘導
 シ得ルトキハ却テ耶蘇ノ名ヲ成スヲ妨クルト
 モ以テ徳望ヲ崇フスヘキノ一端ニ供シ難シ予
 今茲ニ於テハ只耶蘇ノコトヲ預言セシト云文
 ノミヲ論セン ○米迦書ヨリ引ク所ノ先知載キ
 云々ノ文ハ其名ヲ指サス只或人ニ就テ記セシ
 者ナリ蓋シ此或人ニ由テ或ル大志ヲ起セシ者

ナラン然ルニ第五節ニ至テ此或人ニ就テ記ス
 ル者ニテ之ヲ記スル所ノ人ハ耶蘇ニアラサル
 コトヲ證スヘキアリ何トナレハ第五節ニ米迦
 ノ言アリ此人ヤ亞述人ノ我地ヲ侵伐シテ我カ
 宮殿ヲ蹂躪セハ牧伯傳膏者將サニ興ラントス
 七八人ヲ以テ限リトセス以テ之ヲ攻撃シテ遂
 ニ平穩ヲ得ン 五節六節 而シテ彼レ必ス鋒刃ヲ
 以テ亞述 寧録 ノ境ヲ攻メ以テ我カ民ヲ患難ニ
 免カレレメント ○前文ヲ以テ見ルニ米迦ハ後
 世耶蘇ノ生ル、事ニ就テ預言セシ語意ヲ含マ

スシテ之ヲ以テハ決シテ耶蘇ノコトニ準擬ス
 ル能ハサル者ノ如シ且其文ハ全ク戎馬ノ事夕
 ル昭乎トシテ明カナリ猶且此事ヲ記スル時ノ
 世態ハ即チ耶蘇ノ生ル、時ノ世態ト互ニ相反
 ス而シテ耶蘇ノ生レシ時ニ當テ此國ニ勝チ此
 地ヲ蹂躪セシハ亞述人ニアラスシテ羅馬人ナ
 リ而シテ耶蘇ノ没スルニ及マテ敵ヲ驅攘スル
 コト能ハスシテ耶蘇ノ刑架ニ懸リレモ其門徒
 ノ難ヲ受ケシモ皆此羅馬人ノ法ヲ以テ罪ヲ斷
 セシナリ○己ニ米迦書中ノ文ハ耶蘇ノ事ヲ預

言セシ者ニアラサルコトヲ論決セリ次テ第三
 ニ本傳ニ於テ舊約書ヨリ引ク所ノ文ニ論及セ
 ントス○本傳ノ第二章ハ前ニ己ニ論スルカ如
 ク夢ヲ以テ基礎トシテ記セシ者ナリ即チ其夢
 ハ神使、來テ告シコトヲ見タル夢ナリ即チ本
 傳第二章第十三節ノ文ヲ左ニ掲ク○主ノ使者、
 夢ニ約瑟ニ見ハレテ曰ク起テ嬰及ヒ母ヲ携テ
 埃及ニ奔リ彼ニ寓シ予カ爾チニ示スヲ待テ蓋
 シ希律將サニ嬰ヲ索メテ之ヲ殺サントスレハ
 ナリ約瑟遂ニ起チテ嬰及ヒ母ヲ携テ夜埃及ニ

往キ彼コニ寓シ希律ノ薨スルニ至ル主先知ニ
 托スルハ言ニ曾チ吾子ヲ召シテ埃及ヲ出テシ
 ハト云フニ應ス。○何西書第十一章第一節ニ曰
 ク以色列族孩提ノ時我レ己ニ之ヲ愛シ之ヲ視
 ルコト子ノ若シ之ヲ召レテ埃及ヲ出テシム乃
 至^{パリ}巴力ニ獻祭レテ香ヲ偶像ニ焚ク。○此文誤テ
 耶蘇ノコトヲ預言セシ者トセリ此文ハ以色列
 ノ族^法老ノ時埃及ヲ出タルト其以色列ノ子孫
 埃及ヲ出テ、後チ神ニ不遜ナルコトニ關係ス
 ル者ナリ若シ此事ヲ以テ耶蘇ノ事ニ準擬スヘ

キ者トスルトキハ耶蘇ハ此時ニ當テ巴^耳ニ獻
 祭シ香ヲ偶像ニ焚キシ人トセサルヲ得ス何ト
 ナレハ埃及ヨリ出タル人^少之ヲ以色列人ト概
 稱ス而シテ此神ノ誠言ニ背クノ罪ヲ犯シ偶像
 等ヲ拜セシ人ハ埃及ヲ出タル人ナルヤ或ハ其
 人ノ子孫ナルヤヲ知ラス然ルトキハ耶蘇ヲシ
 テ神ニ不恭ナル人ト為スヲ欲セサルトキハ此
 文ヲ以テ耶蘇ノ預言トスルヲ得ス予今本傳ノ
 記者舊約書中耶蘇ノ預言ト稱スル第四條ニ及
 ハシ。○本傳第二章第十六節ニ曰ク當時希律博

士ノ為ニ賣ラル、ヲ知リ怒ルコト甚シ人ヲシ
テ伯利恒境内所有ノ嬰兒ヲ將テ其詳ヲ按シテ
博士ニ問ハシム時凡ソ二歳以下ノ者ハ之ヲ殲
グス前ノ嬰ヲ携ヘテ埃及ニ逃レレコトハ縱使
實事ナルモ約瑟ノ外一人トシテ希律ノ命ニ從テニ
セシ者アルニアラス而シテ希律ノ命ニ從テ二
歳ノ嬰兒ヲ殺戮セシ事ハ或ハ信スルニ足ル者
アリ希律羅馬政府ノ鎮臺タルトキ其虐政ヲ施
コセシ殆ト後人ノ信シ難キホトノ甚キ殘暴ヲ
ナセシハ蓋シ保羅ノ事ヲ以テモ知ルカ如レ○

然ルニ本傳第二章ノ第十七節ニ至テ曰フ是ニ
於テ先知耶利米ハ言應セリ其言ニ曰ク拉馬ニ
在テ悲泣哀哭重憂ハ聲ヲ聞ク拉結氏子ヲ哭ス
存スルナキヲ以テハ故ニ慰メヲ受ケス○此文
ハ耶利米書第三十一章第十五節ニ在リ若シ此
文ヲ準擬セント欲セハ宜ク耶蘇宗徒ノ屢艱難
セシ所ノ戰鬥其他刑戮ニ罹ル所ノ子ノ為メニ
其父母ノ悲傷スル等ノ際會ニ適合セシムヘシ
今此ニ記スル所ノ如キハ更ニ適用スヘキコト
ナク特ニ之ヲ記載セシ事實ハ其前ニ生シタル

道
卷之七
抄
抄

コトヲ記スルノミニテ将来起ラントスル所ノ
者ヲ預言セシ者ニアラス何トナレハ此文ハ皆
ナ過去ノ時ヲ述ル義アレハナリ予此事實ヲ解
明シテ此文ニ吻合スル所ヲ示サントス○耶利
米ハ**泥布甲尼撒**ノ**耶路撒冷**ヲ圍ミ之ヲ掠奪シ
猶太ノ人民ハ囚虜トナリテ**巴比倫**府ニ送ラレ
シ時ニ當テ存在セシ人ナリ**尼布甲尼撒**ノ猶太
人ヲ遇スルコト最モ惨刻ニシテ**西底家王**ノ眼
前ニ於テ其王子ヲ殺シ而シテ**西底家王**ノ眼ヲ
抉リ銅索ヲ以テ之ヲ獄ニ繫キ遂ニ囹圄ニ幽シ

テ死ニ至ルマテ殺サス○猶太人如此ノ艱苦ヲ
嘗ムルニ當テ耶利米ノ語アリ曰ク**宮殿ハ破壊**
シ土地ハ荒蕪シ人民ハ主君ト共ニ斃レ老幼子
女皆囚虜トナルト夫猶太人ハ間關流離此ノ如
キ時ニ於テ何ノ暇アツテカ七百年ヲ經テ起ル
ヘキ事ニ就テ工失ヲ費シ眼前ノ悲痛ヲ忘ル
ヲ得ンヤ○耶利米書ノ語ハ即チ此猶太人ノ艱
苦スル時ニ在リシコトナリ十六及ヒ十七ノ二
章中ニ曰フ所ハ耶利米ハ人民ヲシテ此厄難ヲ
脱シテ再ヒ舊地ニ歸ルヲ得ヘキ希望ヲ起サレ

道里ノ上
十三
推
推

×且之ヲ保證シテ神ノ言トシ以テ人民喪敗ノ
 心ヲ慰メント欲セリ然リト雖トモ予ハ猶太人
 民ノ為メニ語ルヘキ文ト本傳ニ反對シテ證ス
 へキ文アルヲ見ル○耶利米記第三十一章第十
 五節ニ曰ク拉マニ在リ悲泣哀哭重憂ノ聲ヲ聞
 ク（此時ハ乃チ過去ナリ）拉結氏子ヲ哭ス存
 スルナキヲ以テノ故ニ慰メヲ納レスト○第十
 六節ニ曰ク耶和華曰ク號哭スルコト勿レ涕ヲ
 出スコト勿レ蓋シ爾チノ子必ス敵國ヨリ返ラ
 シ○第十七節ニ曰ク耶和華又曰ク爾チノ終身

欠

MISSING

太ニ非スシテ本傳ノ作者ナリ本傳ノ作者約瑟
 ノ腦ニ於テ代理人トナリテ夢ミタルハ恰モ祖
 以哩ノ泥布^キ甲^キ尼撒^キニ代テ夢ミタリト語リシカ
 如シ然リト雖トモ今ハ假リニ此事アリシ者ト
 者做シテ予我カ主意ヲ以テ論破スヘシ○此夢
 ノ記ハ本傳第二章第十九節ニ出ツ曰ク希律既
 ニ薨ス主ノ使者埃及ニ在リ夢ニ約瑟ニ見ハレ
 テ曰ク起テ嬰及ヒ母ヲ携テ以色列ノ地ニ往ケ
 蓋シ嬰兒ノ命ヲ害セント欲スル者己ニ死セリ
 約瑟遂ニ起テ嬰及ヒ母ヲ携ヘテ以色列ノ地ニ

至リ亞基老猶太ニ於テ父希律ニ繼ヒテ王トナルヲ聞キ懼レテ敢テ往カス但夢中ニ嘿示ヲ得
（コ、ニ亦他ノ夢ヲ加フ）故ニ加利利ノ境ニ
歸リ一邑ニ至ル拿撒勒ト名ク之ニ居レリ諸先
知ノ言ニ人將サニ之ヲ呼ンテ拿撒勒ノ人ト為
ント云ニ應ス○爰ニ於テ馬太即チ作者ノ夢ニ
シ證アリ蓋シ舊約全書中此ノ如キ語ナシ予其
證ヲ得ン為メニ亞米理加全州ノ耶蘇ノ僧正及
ヒ一般ノ僧徒ニ此事ヲ開申シテ請ハントス他
日其證ヲ得ハ速カニ一紙ノ答文ヲ答ムナカレ

道... 卷之七

予進ムテ預言ノ第六條ニ論及セン○此章ハ尤
モ牽強附會シタル痕跡宛然トシテ文章上ニ溢
ル○本傳第四章第十二節ニ曰ク耶蘇約翰ノ幽
囚セララルヲ聞キ乃チ加利タニ往キ拿撒勒ヲ
去テ加百農ニ至テ居ル其地海ニ濱シ西布倫ト
ト加利ノ境ニ在リ先知以賽亞ノ言ニ西布倫納
大利其地海ニ浴フ乃チ約但河上異邦ノ加利タ
ナリ暗ニ處スルノ民己ニ大光ヲ見死地陰翳ニ
居ル者ハ光アリ之ヲ射ルト云フニ應ス○予馬
太ノ特リ十字架ノ事ヲ預言ニ作ラサリシヲ怪

道... 十六

馬太ハ自ラ在ル所ノ事状ニ結合ナキ文ヲ抄
 出シタルカ如ク此章ヲ記セリ然ルニ以賽亞書
 第九章第一及第二節ニ言アリ即チ左ノ如シ曰
 ク越ニ疇昔ニ在リテ西布倫ト納太利沿海ノ地
 約但河上異邦ノ加利々此數邑ハ屢凌辱ヲ被ム
 ル後日ニ迨ムテ艱難ニ邁ハス必ス榮頭ヲ得ン
 暗ニ處スルノ民己ニ大光ヲ見死地陰翳ニ居ル
 者ハ光有リ之ヲ射ル○渾テ此レハ以賽亞書ヲ
 録セシ時既ニ起リシ所ノニケノ事實ニ關係ス
 一ニハ即チ西布倫ト納太利トノ地ノ大ニ困メ

ラレタルコトニニハ其後一層甚シキ窘蹙ヲ忍
 ムテ沿海ノ地ニ在リシコトナリ○然レトモ看
 官馬太ハ如何カシテ教書ヲ偽リタルヤト云コ
 トニ注意セサルヘカラス馬太ハ只以賽亞書中
 ヲリ其苦難ニ罹リシコトヲ叙セシ章句ノニヲ
 截取シテ之ヲ引用シ其次下ノ文ニ苦難ニ係ル
 所以ヲ説明スル者ヲ載セス而シテ其文中須要
 タル者ヲ弄テ、只都府ノ名ノミヲ擧ケテ意味
 ナキ者トナセリ○馬太カ人ヲ欺弄スルコトヲ
 明ニシ以テ省官ノ覽觀ニ供セニカ為メニハ再

ヒ前ノ以賽亞書ノ文ヲ分拆シテ論セサルヘカ
 ラス○越ニ疇昔ニ在リ西布倫納大利其地海ニ
 沿フ約但河上異邦ノ加利々此數邑ハ屢凌辱セ
 ラル○此節ヲ預言トスルハ欺罔モ亦甚シト謂
 フヘシ此ノ如キハ以賽亞書中ノ文ヲ截取スル
 全ク其原意ヲ失シ而シテ之ヲ以テ信ニ輕忽ナ
 ル世人ニ對シテ預言ノ口實トスル為メニ記セ
 シ者ナリ予進ムテ以賽亞書ノ前ノ文ニ次ク者
 ヲ論スヘシ○第二節ニ至テ曰ク暗ニ處スルハ
 民己ニ大光ヲ見死地陰翳ニ居ル者ハ光アリ之

ヲ射ル總テ此文ハ紀事ニシテ預言ニアラス且
 皆過去ノ事實ニシテ此書ヲ記スル時ニ當テ有
 リレ事ニテ爾後將サニ起ラントスルコトニア
 ラス○然ルトキハ若シ此文ヲ預言ト為スヘキ
 者ニアラサレハ之ヲ預言ノ口實トシテ世ニ傳
 フルハ特ニ原本ノ意ニ背クノミナラス謂ツヘ
 レ人ヲ欺誑スル者ナリト且馬太ハ暗ニ處スル
 ノ人民トハ誰ヲ指スヤ又大光トハ何ヲ指シテ
 云ヤヲ知ルカ予馬太カ其太夕奇巧ヲ欲シテ顧
 テ失スル者ナリトスルノミ○予以賽亞書ノ此

章ノ前（即チ第八章）ヲ讀ムトキハ第九章ハ
 其尾ヲ續キタル者ノミ又其十九章ニ記スル所
 ヲ見ルニ魔巫覡カ其術ヲ幽暗ノ處ニ施サント
 スルヲ拒ミシ人ニ對シテ不平ヲ鳴ラセル事實
 アリ第九章ノ二節ニ記スル者ハ即チ曖昧ノ行
 ヒ及ヒ光ヲ覩ル事ヲ以テス是即チ此事ニ關ス
 ○以賽亞書ハ順序錯亂殆ト人ヲシテ考檢ニ倦
 マシム故ニ此事實ニ就テモ確然タル結局トシ
 故ニ書中屢後人ヲ誤リ且往々ニ欺説ヲ附加ス
 へキ機會ヲ生シ其甚シキハ後人耶蘇ノ事ヲ預

言セシ者トシテ之ヲ世ニ弘布スルニ及フノ原
 因ハ即チ其書ノ杜撰ナルト思想ノ錯亂スルト
 譬喩ノ言多キトニ歸ス故ニ其書タル直チニ義
 意ヲ詳ニスル能ハス且何ノ為メニ此事ヲ記セ
 レヤヲ解知スヘカラサル者アルニ由テ強テ之
 カ注解ヲ施スヲ要セシカ故ニ自ラ任意ニ蛇足
 ヲ畫キ之ヲ附加シテ其缺乏ヲ填補セリ然レト
 モ予ハ此預言トセシ一節ニ於テハ思慮ヲ截
 取レタル馬太ノ剪刀下ニ以賽亞ヲ救ハシ為メ
 且僧侶及ヒ注解者カ以賽亞ヲ誣罔シ以賽亞ヲ

レテ此徒ノ己カ思フ所ヲ語ラシメントスル者
 ナルヲ知ル○暗ニ處レ光ヲ視ルノ語ハ何等ノ
 時所ヲ問ハス預言ニ用ヒ得ル者ナリ且他ノ時
 ニ比スレハ我人ノ今存在スル所ノ世態ハ最
 モ好ク適用スルヲ得ヘシ何トナレハ世人ハ久
 レク暗ニ處セリ宗教邦制ヲ問ハス光ノ發セシ
 ハ米國革命以降ノ事ナリ夫苟モ天地萬有ナル
 活經典ヲ以テ我人ニ嚙示スル所ノ獨一真神ヲ
 信スルヤ豈ニ人一臂ノ力ヲ振テ之ニ抵抗シ之
 ヲ誣罔スルヲ得ニヤ又馬太等ノ書ノ如キ騰寫

鏤刻ヲ論セス共ニ之ヲ轉換スルヲモ得ヘク又
 訛謬アルヲ免レサル者ト異ナル人カヲ以テ變
 易スヘカラサル者ヲ以テ人類中ニ其道ヲ成サ
 ントス且邦制上ニハ既ニ真ノ光線ヲ發セリ人
 タ能ク注意シテ其度ヲアヤマラサルヲ要ハ佛
 蘭西ノ君主專裁貴族驕暴ニシテ百事殘刻ナリ
 レ時ニ當テ人民意ヲ決シ之ニ抗敵セシカ如ク
 世人宜ク教家專擅ノ弊ヲ革除シ真神ノ材徳ヲ
 窺知スル所ノ真光ヲ挑出セントスルノ決意ヲ
 以テ之ヲ碎礪スヘキナリ予耶蘇ノ預言ト称ス

ル第七條ニ論及セン○本傳第八章第十六節ニ
 曰ク既ニ暮ル患鬼ヲ携ヘ來テ就ク者アリ俱ニ
 一言ヲ以テ之ヲ逐フ病ヲ負フ者ハ之ヲ醫ス先
 知以賽亞ノ言ニ其我カ恙ヲ任トシ我カ病ヲ肩
 ニスト云フニ應ス○人ノ魔ニ憑ラレ而シテ之
 ヲ逐ヒシ談ハ即チ新約書ヲ著スル時代ニ當テ
 行ハレタル小説ナリ故ニ他ノ時代ニハナキコ
 トナリ舊約書中絶ヘテ如此事實ヲ記セシヲ視
 ス又當今ノ人民ニハ此ノ如キコトアルヲ知ラ
 ス又何ノ國何ノ民モ未タ曾テ此ノ如キ欺誑ノ

事實ヲ記スル著述者アルヲ知ラス今本傳中後
 人ニ示ス者アル全ク新約書ト宗徒トノ作者ノ
 捏造ヤシ者ナリ本傳ハ魔ノ事ヲ記セシ書ノ魁
 ナリ舊約書中「ハミリヤル」親レキ氣ト稱スル者ヲ見
 ル是賣ト者ノ流ニシテ即チ浮虚ノ説ヲ信スル
 無學ノ人民ヲ欺テ金ヲ得タル者ナリ○然レト
 モ「ハミリヤル」スパリツトノ考按ハ其字ニ就テ
 考フレハ鬼氣ト大ニ異ニシテ其「ハミヤル」ナリ
 ト思ハレシ者ハ賢哲ノ士師等ニテ之ヲ招クト
 キニ來リ而シテ去ル者アリ或ハ暴君ノ人民ヲ

震スル者ニ在ルコトナリ請フ看官苟モ為スコ
 トアラントセハ宜ク自身ニ賦與セラレタル真
 知ヲ開暢シテ深ク造物者ヲ信スヘシ而シテ此
 ノ如キ小説ハ總テ之ヲ廢棄セヨ○本傳ニ預言
 トシテ啞謎ノ文ヲ引用セシ其語ハ即チ出テ、
 以賽亞書ノ第五十三章第四節ニ在リ曰ク其困
 苦ヲ見以為ク上帝之ヲ譴責ス我カ恙ヲ任トシ
 我カ病ヲ肩ニスル者ハ正ニ斯人ナルヲ知ラサ
 ルナリト茲ニハ患鬼ヲ逐ヒ病ヲ醫スルコトヲ
 視テ故ニ其文ハ耶蘇ノ預言ニアラス且其記ス

ル事實ニスラ合セサル者ナリ○以賽亞書ヲ録
 セシハ以賽亞ナルカ或ハ偽作者ナルカハ知ラ
 サレトモ其第五十三章中ニ人ノ零下孤苦ニシ
 テ死セシヲ歎セリ此今ノ文ハ即チ其朋友ノ死
 ヲ悼哭セシ輓歌ナルヘシ然リト雖トモ其死セ
 シ人ノ名ヲ記セス又曾テ己カ其人ト相識リレ
 緣由ヲモ録セス馬太之ニ準擬スルニ耶蘇ノ名
 ヲ以テセントスルハ甚夕誕漫ナルコトナリ若
 シ當時其心ニ於テ猶太ノ酋長ハ國家傾覆ノ大
 危難ニ際シ自ラ一身ニ擔任スル所ノ事務ヲ焦

心苦思セス又其人民ノ塗炭ヲ濟フコトヲモ思慮セスレテ只將來ノ事ヲ預言セシ者トセハ豈之ヲ誤リト云ハサルヲ得ンヤ○歌ヲ預言トナス其誤ル亦更ニ甚シキ者ナリ夫世ヲ殊ニスト雖トモ人ノ性情ト事實ハ概テ相同シキ者ニシテ一人ニ對シテ預言ト云フヲ得ヘキ者ハ數人ニ對スルモ亦預言ト云フヲ得ヘシ然レトモ其必ス密合スルヲ要セハ其文ノ以テ預言トナスハキ者ナシ偽作者ト宗教ヲ固信スル人ニアラサレハ敢テ之ヲ信シ之ヲ称シテ預言トセス○

以賽亞ハ其友ノ不遇ニシテ歿シタルヲ歎セシノミニテ其事實ヲ記セス然レトモ人各其運命アリ今以賽亞カ記スル所ノ人ハ總テノ事情ヲ察スルニ刑戮ト幽囚ト忍辱ト大義ヲ固守スルコトニテ皆人道ノ線ヲ出テス然リト雖トモ其意特ニ一人ニ屬セス數人ニ就テ云フ者ノ如シ然ルニ耶蘇ハ若シ僧徒ノ云フ如キ人ナルトキハ其耶蘇ノ行事ニ適當スルホトノコトハ常倫ニ超出シ庸人ノ倫理ト遙カニ卓絶スル者ニシテ決シテ他ノ人ニハ適當スヘカラサル者ナラ

サ、ル、ヲ、得、ス、而、シ、テ、此、章、中、ニ、於、テ、ハ、如、此、言、ア、ル、
 ヲ、見、ス、復、新、約、書、中、ニ、モ、此、ノ、如、キ、章、句、ア、ル、ヲ、視、
 ス、○、前、ニ、掲、ク、ル、所、ノ、章、句、ノ、以、賽、亞、哀、悼、ノ、情、ヲ、
 寫、ス、文、ハ、殊、異、ナ、ル、コ、ト、ニ、非、ス、彼、人、ノ、困、苦、セ、レ、
 ヲ、形、容、シ、テ、曰、ク、羔、羊、ノ、死、地、ニ、就、ク、カ、如、ク、又、羊、
 ノ、剪、毛、者、ニ、對、シ、テ、聲、ヲ、キ、カ、如、ク、牽、制、屈、抑、セ、ラ、
 ル、モ、敢、テ、其、口、ヲ、啓、ラ、カ、ス、ト、是、壓、制、ノ、下、ニ、忍、
 耐、シ、嘿、シ、テ、死、ニ、就、ク、所、ノ、者、ニ、ハ、假、令、數、百、人、ニ、
 就、テ、云、フ、モ、可、ナ、リ、○、グ、ロ、ヂ、ニ、ス、ハ、僧、輩、ノ、仰、
 望、シ、テ、學、者、ト、セ、シ、人、ナ、リ、其、人、ノ、語、ニ、ハ、以、賽、亞、

カ、茲、ニ、哀、悼、ス、ル、所、ノ、人、ハ、耶、利、米、ナ、ル、ヘ、シ、ト、云、
 ヘ、リ、是、此、說、ア、ル、所、以、ハ、以、賽、亞、書、ト、耶、利、米、書、ト、
 符、合、ス、ル、所、ア、ル、ニ、由、テ、ナ、リ、若、シ、耶、利、米、ハ、耶、路、
 撒、冷、ノ、攻、圍、セ、ラ、レ、シ、ト、キ、反、セ、サ、ン、ト、モ、冤、ヲ、蒙、
 テ、逆、謀、人、ト、セ、ラ、レ、タル、人、ナ、リ、ト、セ、ハ、其、記、中、甚、
 タ、通、シ、難、キ、者、ア、リ、耶、利、米、ハ、其、國、人、ノ、憤、怨、ヲ、受、
 ケ、罪、セ、ラ、レ、テ、獄、ニ、囚、ハ、レ、ク、リ、且、耶、利、米、ノ、言、ア、
 リ、即、チ、耶、利、米、記、第、二、十、章、第、十、節、ニ、我、レ、衆、民、ノ、
 我、カ、躬、ヲ、訕、謗、ス、ル、ヲ、聞、ク、隨、在、驚、惶、シ、彼、此、傳、語、
 ス、罪、ヲ、聲、ヲ、シ、テ、我、ヲ、辱、カ、ン、ム、我、ノ、友、朋、我、レ、ヲ、

望ムテ、趙起、以等ト云々スルヲ三ヨ○耶利米ハ
 若シ實ニ其自ラ語ル所ノ如キ困苦ヲ受ケント
 セハ以賽亞ト同時ニ生存セシ人ナルトキハ予
 亦心ヲゴロゲニスノ説ニ傾ケサルヲ得ス然
 レトモ以賽亞ハ己ニ耶利米ノ五十年前ニ歿セ
 シ人ナリ然レハ則チ以賽亞カ哀悼セシ人ハ彼
 レト同世ノ人ナルコト論ナケレハ前ノ説モ亦
 取り難シ而ルヲ況ヤ之ニ附會スルニ七百餘年
 ノ後チニ生レタル耶蘇ノコトヲ預言セシ者ナ
 リトシテ人ヲ欺ムク者ニ於テオヤ○我今耶蘇

カ預言ニ應スルト云フ第八條ニ論及セン○本
 傳第十二章第十四節ニ曰ク法利賽人出テ、耶
 蘇ヲ殺サント謀ル耶蘇之ヲ知り則チ彼コトヲ離
 ナル衆之ニ從フ凡ソ病者ヲ醫スル衆ヲ戒メテ
 揚クルナカラシム先知以賽亞ノ言ニ我カ僕ヲ
 視ルヤ我レ之ヲ選擇ス我レ其人ヲ愛シ我カ心
 之ヲ善シトス我レ將サニ我カ神ヲ以テ之ニ賦
 セントス而シテ彼レ法ヲ以テ異邦人ニ示ス其
 競ハス喧シカラス其聲嚮ニ聞エス己ニ傷ルノ
 葦ハ折レス燃餘ノ炷ハ滅セス後ニハ則チ法ヲ

行ヒ以テ勝ヲ致シ、異邦ノ人モ亦其名ニ頼ラン、ト云ニ應スト第一ニ此章ハ之ヲ引ク所ノ目的ト關係ナシ○馬太曰ク法利賽人耶蘇ヲ殺サント謀レリ耶蘇故ニ自ラ去ル衆之ニ從フ耶蘇人ノ病ヲ醫ス而シテ之ヲ戒ムルニ人ニ知ラシメサルヲ以テス○然ルニ其事情ノ應スルコト、シテ引ク所ノ文ハ其一事情ニ適スル者ナシ法利賽人耶蘇ヲ殺サントシテ會セシ云々ノ談ハ固ヨリ之ニ關スル者ニアラス○後ノ引ク所ノ文ト前ノ文ト其意互ニ相隔離シテ毫モ關係ス

ル所ナキカ如シ予思フニ世人目ヲ閉チテ舊新約書ヲ讀ムノ習慣ヲ生シテ其言ノ符合セサルハミナラス乖反頗ル太シキ者ヲモ之ヲ盲信擧奉スルニ外ナラス彼ノ耶蘇教ナル者ハ至尊至高ノ造物者ヲシテ小説ノ作者ト為シ全地球上ノ人民ノ精神ヲ攪動シテ之ヲ信セシム豈奇怪ト謂ハサルヘケンヤ○以賽亞書中此引ク所ノ章ハ末ノ節ニ至ルマテ其語ル所ノ人ノ名ヲ記セス我人ハ此ニ就テ讀ムニ恰モ暗夜ニ行クカ如シ宗教ニ固著シ或ハ欺詐ヲ信用シテ預言ト

スルノ誤リハ歴史ノ記文ニ此ノ如キ闕乏アル
 二由テ生スルコトナリ○即チ上ノ文ハ以賽亞
 書ノ第四十二章ニ出ツ即チ其第一節ヨリ第三
 節ニ至ルニ曰ク蓋ソ我カ僕ヲ觀サル我レ之ヲ
 扶翼シ我レ之ヲ遴選シ我レ之ヲ悦懌ス我レ將
 サニ我カ神ヲ以テ之ニ賦セントス彼レ法ヲ以
 テ異邦ノ人ニ示ス彼レヤ凌競胥モニ泯ヒ喧譁
 務メテ静カナリ其聲遠衢ニ聞ヘス己ニ傷フル
 ハ葦ハ折レス燼餘ノ炷ハ滅セス法ヲ行ヒ以テ
 真理ヲ傳フト以賽亞古列ノ時ニ在ラハ此文ハ

宛然彼レニ適合スヘシ古列ハ波斯ノ王トシテ
 其威外邦ヲ震動セリ彼レ常ニ猶太人ト親キ故
 二其久シク巴比倫ニ擄セラレシヲ放免セリ此
 時猶太人ヲ以テ蘆葦ニ比セリ然ルニ此記ハ決
 シテ耶蘇ノ事ニ適合セス耶蘇ハ異邦ノ人ニ其
 威權ヲ振ハス若シ其國內ニ就テ蘆葦ニ比スル
 者ハ是耶蘇ヲ刑セシ人トナル又耶蘇ニ就テハ
 其聲衢ニ聞ヘスト云能ハス耶蘇ハ法ヲ説テ人
 ヲ諭ス是其聲ヲ聞カル、ヲ以テ業トシ以テ諸
 方ヲ周遊セシ人ナリト聞ク或ハ云ハン本傳中

耶蘇ハ山頂ニ於テ法ヲ衆庶ニ説キ聞カシム山
 ハ衢ト異ナリト是畢竟遁辞ニ属ス何トナレハ
 其私地ニ非スシテ公地タルハ山上衢頭共ニ具
 ナルナケレハナリ○以賽亞書第四十二章ノ詩
 四節即チ直チニ前ニ掲ケシ者ニ次ク所ノ文ニ
 曰ク瞻ヲ夜ハス困憊セス道ヲ世ニ傳フ洲島ノ
 民實ニ瞻望ス馬太ハ此節ヲ引用セサレトモ此
 文亦古列ノ事ニ適合セリ彼レ盡ク巴比倫ヲ平
 クルマテ瞻ヲ夜ハス困憊セス遂ニ猶太人ヲ解
 免シ律法ヲ設立ス然ルニ之ヲ耶蘇ニ就テ云フ

能ハス耶蘇ハ馬太ノ言ニ從ヘハ法利賽ヲ恐レ
 テ去リ從フ者ニ戒ムルニ他ニ聲言セサルコト
 フ以テス紀傳ニ由テ視ルニ耶蘇ノ諸州ヲ遍歴
 スルヤ常ニ敵ノ為メニ知ラレニコトヲ恐レタ
 リ
 予本篇ノ中ニ於テ以賽亞書ハ其録スル所ノ
 事實ハ害ナキモ其記者ノ正キ者ニアラハル
 コトヲ示セリ然ル所以ハ其書中以賽亞ノ記
 載ニ能ハサル事情アリ何トナレハ以賽亞ノ
 没後一百五十年ヲ經テ起リシ事實ヲ録セシ

カ故ナリ其書ニ就テ予カ此事ヲ検索スル所
 ハ本傳ノ條下ニテ論スル趣旨ト符合ス○古
 列令シテ猶太人ノ巴比倫ニ虜トナリテ在リ
 シ者ヲ盡ク耶路撒冷ニ歸ラレメタル事ハ以
 士喇紀ノ第一章ニ在リ即チ西底家ノ死後古
 列ノ即位ニ至ルマテ其間相拒ルコト凡ソ一
 百五十年ニシテ以賽亞ハ西底家在位ノ日既
 ニ高年ノ人ナリ猶太人ハ此古列カ寛仁ノ措
 置ヲ受ケ其喜ヒ肺腑ニ沁徹セルコト疑ヲ容
 レス故ニ其徳ヲ歌頌シテ之ヲ感謝スルヤ曾

テ其習熟セル文体ト高尚ナル言辞或ハ非常
 ナル事ニ用ユル譬喩ノ言トヲ以テセリ○予
 カ擧クル所ノ例ニシテ本篇ノ中ニ於テ此書
 ノ第四十四及四十五ノ二章ヲ引ク所ノ例ハ
 則チ其感謝スル詞ニシテ其第四十四章ノ結
 尾ト第四十五章ノ首端ニ記スル文ニ同シ即
 チ古列ニ就テ謂ヘルコトアリ曰ク（第四十
 四及ヒ五章）古列ヲ召シテ牧伯トシ以テ我
 カ志ヲ成ス我レ彼レヲシテ耶路撒冷ハ必ス
 建造スルヲ得ト言ヒ又聖殿ハ必ス基ヲ肇ム

ルヲ得ト言シメン耶和華受膏者古列ニ告ク
 テ曰ク我レ爾ヲ左右シ列國ヲシテ賓服セ
 シメ諸王ヲシテ荏弱ナラシメ大ニ邑門ヲ啓
 ヒテ閉拒スルコト能ハサラシメン云々○此
 等ノ語ハ凡テ現在ノ時ヲ示ス者ニシテ其就
 テ語ル所ノ者ハ之ヲ記シタル時ニ存在セル
 者ナリ故ニ之ヲ記セシ人ハ以賽亞ノ没後一
 百五十年ヲ經テ出タル人ナルヲ知ル而シテ
 以賽亞書ハ多クノ書ヲ聚メテ卷ヲナセシ者
 ナリ所羅門ノ箴言大綱ノ詩篇ト稱スル者モ

亦同種類ノ書ナリ歷代史畧下ノ最後ノ二節
 ト以士喇紀ノ第一章首端ノ三節ハ同種ノ事
 ニシテ編者他人ノ作レル書ヲ輯録セシ痕跡
 ヲ存ス○今ノ所論ニ關スルコトニハ非レト
 モ其古列ノ名ヲ記セル文ハ第四十四章ト第
 四十五章ニ在リ而シテ第四十二章中ノ文ニ
 ハ名ヲ擧ケサレトモ亦同キ風裁ヲ以テ記シ
 タレハ其陳フル所ハ古列ノ事ナリト決スハ
 キ義自ラ其文中ニ含蓄セリ
 然ルニ以賽亞書ニテハ何人ヲ指シテ記セシ者

ナルヤ今古夏カニ相隔タルヲ以テ予敢テ詳カ
 ニ之ヲ知ルヲ得ルト云ニアラス又予ハ特ニ其
 何人ナルヲ論セントスルニハ非ス只其人ノ耶
 蘇ニ非ルコトヲ知テ教徒ノ欺キヲ受ケサルヲ
 要スルノミ予又一步ヲ進メテ舊約ノ耶蘇ヲ預
 言スト云者ノ第九條ニ論及セン○本傳第二十
 一章ノ首節ニ曰ク耶路撒冷ニ近ツキ伯法其ニ
 至リ撒攬山ニ近ツク耶蘇二門徒ヲ遣シテ曰ク
 爾チ前村ニ往キ牝驢焉レヲ繫キ小驢ノ同ク在
 ル有ルニ遇ハ、解ヒテ之ヲ牽ク爾チヲ詰ル者

アラハ則チ曰ヘ主之ヲ需ムト彼レ必ス從テ放
 タレ○是ノ如キハ先知ノ言ニ郇ノ女ニ告ケヨ
 爾チノ王臨至ス溫柔ニシテ驢及ヒ驢ノ小者ニ
 乘ル即チ重キヲ引ク者ノ子ナリト云ニ應ス○
 又舊約ノ文ヲ掲ケン曰ク郇ノ女耶路撒冷ノ女
 當サニ欣喜歡呼スヘシ爾チカ王泣臨ス公義ヲ
 秉リ救援ヲ施ス溫柔ニシテ驢及ヒ驢ノ小ナル
 者ニ乘ル惟以法蓮耶路撒冷ノ車馬我レ將サニ
 之ヲ絶滅シ其強弓ヲ折ラントス王和平ノ語ヲ
 以テ異邦ノ人ヲ撫綏シ四海ノ内大河ヨリ地極

ニ至ルマテ悉ク統轄ニ歸セシ○此文ハ撒加利亞書第九章第九節ニ在リ是撒加利亞其國人ト共ニ巴比倫ヨリ耶路撒冷ニ歸ルニ當リ巴比倫人ニ謝スル語ノ一ナリ是予ニ於テ見レハ同書中他ノ文ノ意ト同シク後代ノ事ニハ關係ナキ者ナリ十二門徒及ヒ僧侶注疏家ハ猶太人ノ巴レノ事務ヲ語ルヲ許サス又之ヲ信セシテ猶太ノ書中ニ記スル者ヲハ變シテ其各書ノ未タ嘗テ心ニ經サル意味ト換置セルヤ驢馬ト雖トモ猶太人ノ物ニ非ス耶蘇ノ物ナリトスルニ至

ル此ノ如クナレハ予彼ノ十二使徒及ヒ僧侶ノ事ヲハ何故ニ舊約ニ預言セシ者ナキヤヲ怪ムナリ○撒加利亞書第一章中ニ耶路撒冷ニ歸テ自ラ歌ヲ作テ欣喜セシヲ知ル即チ其八節ニ曰ク我レ夤夜ニ於テ貌チ人ノ如キ有リ赤馬ニ乘リ山麓ノ岡枯樹ノ下ニ立ヲ見ル其後ニ赤黃白馬ニ乗ル者アリト彼レハ綠馬或ハ藍色馬ニ乗ル人アリシト云ハス恐クハ夜中ニ色ヲ區分スル能ハサル故ナルヘシ耶蘇宗徒ハ此言ヲ疑ハス蓋シ其事ヲ信スト云ハスヘテ其事ヲ實驗セ

サ、ル、ノ、證、ナ、ル、カ、故、ナ、リ、○、撒、加、利、亞、其、後、チ、其、馬、
ニ、次、テ、神、使、ヲ、説、キ、起、セ、リ、然、レ、ト、モ、神、使、ノ、色、ノ、
何、タ、ル、ヲ、語、ラ、ス、唯、之、ヲ、見、テ、奇、ト、セ、シ、ナ、ラ、ン、蓋、
シ、神、使、ハ、必、ス、神、使、ノ、種、類、ナ、ル、コ、ト、疑、ナ、シ、然、レ、
ト、モ、其、色、ノ、何、タ、ル、ヲ、問、ハ、ス、彼、レ、其、神、使、ト、語、ル、
ニ、即、チ、耶、路、撒、冷、ニ、歸、ル、コ、ト、ヲ、以、テ、ス、第、十、六、節、
ニ、曰、ク、故、ニ、我、レ、耶、和、華、復、タ、耶、路、撒、冷、ニ、臨、ミ、而、
シ、テ、之、ヲ、矜、憫、ス、繩、ヲ、以、テ、量、度、シ、我、カ、殿、ヲ、其、中、
ニ、建、テ、ヨ、其、意、ハ、即、チ、耶、路、撒、冷、ノ、都、邑、ヲ、再、造、ス、
ル、ノ、義、ヲ、含、ム、○、總、テ、是、猶、太、人、ノ、囚、擄、ヲ、脱、レ、テ

耶路撒冷ニ歸ル事ナリ故ニ撒加利亞書ノ列記
スル所ハ現在ノ時ニ係ル其七百年後耶蘇カ猶
太ノ都府ニ入リタル事ニハアラス○驢馬ニ乘
ルト云ハ蓋シ本傳ノ作者耶蘇ヲ尊敬セシ言ナ
リ何トナレハ古代ハ驢馬ニ乗ル人少シ但シ此
國ノ驢馬ハ長大ニシテ往古ハ獸類ノ騎スヘキ
物ノ中ニ於テ最モ大ナル者トセリ亦貨物ヲ運
輸スルニ使用スル如キハ駱駝ナリ予此事ニ就
テ士師記第十章ノ第三節ニ記スルコトヲ知ル
曰クキ基列人キ睚耳キ以色列族ニ士師タル二十二年

ヲ歷子三十、アリ小驢三十、乘リ邑三十ヲ治ム
ト然ルニ注疏家ハ各書ヲ故ラニ曲解セリ○本
傳二十一章ノ八九兩節ニ耶蘇ハ衆ニ圍繞シ歡
迎セラレテ公然耶路撒冷府ニ入リタリト記ス
ル者ハ其事ノ真ナラサルヲ證スルニ足ル如何
トナレハ予既ニ前ニモ云フ如ク耶蘇ハ人ニ知
ラル、ヲ恐レ其從者ヲ戒メ己レノ在ル所ヲ敵
ニ知ラシメサルヲ欲セシコトヲ記セリ今尚ホ
能ク其情實ヲ知ル、キ者ヲ示サン耶蘇ハ一旦
身ノ安全ヲ謀リテ遁レ出タル都府耶路撒冷ニ復タ

再ヒ公然入リタル事ヲ記スル者ハ本傳第二十
ヨリ第十一節一兩所ノ記スル所ノ相背反スル若
シ兩ナカラ誤リナラサルモ孰レヲ取テ信ス、
キヤ決スル能ハサルニ似タリ予ニ於テハ新約
全書中史記ニ關シテハ一句ノ信從ス、キ者ナ
シ只是ヲ作者ノ説ト看做ス、ニ其書中最モ力
ヲ用ヒシハ或ル談話ニ己カ想像ヲ加ヘテ記ス
ルコトニ在ルノミ蓋シ書中ニ於テ倫理ニ關ス
ル部ニハ稍可ナク不可ナキ者アリ史記ニ屬ス
ル部ハ取ルニ足ラス予又耶蘇ノ預言ニ應スト

稱スル第十條ニ論及セントス○本傳第二十六
 章第五十一節ニ曰ク耶蘇ト偕モニスル者一人
 彼得手ツカラ又ヲ抜キ祭司长ノ僕ヲ撃テ其耳
 ナリ削ル耶蘇曰ク爾チノ又ヲ斂メテ鞘ニ入レヨ
 凡ソ又ヲ試ムル者ハ必ス又ヲ以テ亡フ爾チ意
 我ニ此時父ヲ祈ラハ我カ為メニ十二營有餘
 ノ使者ヲ遣ハス能ハサランヤ是ノ如クナレハ
 則チ經ニ云フ所此事必ス在ル者如何ソ應スル
 ヲ得ンヤ遂ニ衆ニ語テ曰ク爾チ刀ヲ以テシ挺
 ヲ以テシ来テ我レヲ執フルコト冠ヲ禦クカ如

クスル乎我レ日ニ爾チト偕モニ殿ニ坐シテ教
 誨ス爾チ我レヲ執ヘサレ如是クシハ先知ノ載
 スル所ニ應ス○此粗糲ナル談ハ證トスル能ハ
 ス舊約ヨリ引用セシ成語ナク又關涉スヘキ所
 ノ舊約ニ此事ヲ録シタル先知ノ名ヲモ顯サス
 只此談ハ無根ノ妄言ナル證アルノミ○其證ト
 ハ曰ク猶太ハ此時亡國シテ羅馬政府ニ隸屬セ
 リ羅馬府ニテ其亡國セシ人民ニ劔ヲ帶ルコト
 ヲ許セシコトハ信シ難キノ一ナリ彼得ハ祭司
 長ノ僕ヲ撃テ其耳ヲ削ラス直チニ捕ハレテ耶

蘇ト共ニ羅馬府ノ獄ニ囚ハレタルヲ信シ
 難キノ二ナリ耶蘇ト十二使徒ト及ヒ其他ノ徒
 弟ノ談ハ恰カモ彼得カ帶ヒタル劔ト同シク有
 ルヘキ理ナキ者ニアラサルヲ得ンヤ信シ難キ
 ノ三ナリ此耶蘇カ執ハレレ事情ハ除酵節ノ日
 ニ起リシトアリ然ルニ劔ヲ帶ルハ祭日ノ儀式
 ニアラス信シ難キノ四ナリ予次テ舊約ノ耶蘇
 ヲ預言セリトスル者ノ第十一條ニ論及セン○
 本傳第二十七章第三節ニ曰ク時ニ賣師猶太耶
 蘇ノ罪ニ定マルヲ見テ則チ悔ユ其金三十ヲ反

ヘシ祭司諸長々老ニ與ヘテ曰ク我レ無辜ノ血
 ヲ賣ル罪アリ僉ナ曰ク我レニ於テ何ソ與カラ
 ン爾チ自ラ之ニ當タレ猶太金ヲ殿ニ擲チ退テ
 自ラ縊ル祭司諸長其金ヲ取テ曰ク此レ乃チ血
 價ナリ庫ニ貯フルハ宜キニアラス遂ニ共議シ
 金ヲ以テ陶人ノ田ヲ購ヒ以テ賓旅ヲ瘞ム是ニ
 於テ先知耶利米ノ言ニ我レ估ラル者ノ價三
 十金ヲ取ル即チ以色列人估ル所ノ者ナリ之ヲ
 捐テ、陶人ノ田ヲ購フ主ノ我レニ命スルニ從
 フナリト云フニ應ス○此全文欺誣ノ甚キ者ト

云ヘシ耶利米書ノ墓地ヲ購ヒレ文ヲ以テ本傳ニ準擬スルハ恰モ舊約ニ亞米利加ノ地ヲ購フト云者ニ應セリト記スルニ同レ予其舊約ノ文ヲ掲ケ之ヲ論辨セントス○耶利米書第三十二章第六節ニ曰ク耶和華耶利米ニ諭レテ曰ク爾子ハ叔沙龍ノ子哈拿滅將サニ至リ爾子ニ詰フテ其田疇ヲ購ハントス斯ハ田亞拿突邑ニ在リ當サニ贖フハキ所ノ者ハ惟爾ナ一人ナリ未ク幾クナラス我カ叔ノ子哈拿滅外獄ニ至テ我レヲ見ル耶和華ノ言ニ應ス彼レ我レニ謂テ曰ク

便雅憫地ノ亞拿突ノ邑我レ田畝アリ當サニ贖フハキ所ノ者ハ惟爾チニ歸ス、シト我レ此レヲ聽キ耶和華ノ使フ所ナルヲ知ル遂ニ叔子哈拿滅ノ田ノ亞拿突邑ニ在ルヲ贖フ金八兩有半ヲ計カリ我レ簡ニ書シテ之ニ印シ人ヲシテ證ヲナサシメ金ヲ權カリテ之ヲ與フ例ニ循テ簡必スニアリ其一ハ緘シテ以テ印シ其一ハ則チ否ラス我レ之ヲ取り馮西雅ノ孫尼利亞ノ子巴錄ニ予フ我カ叔ノ子哈拿滅親ラ之ヲ見ル名ヲ簡ニ書スルハ證人及ヒ外獄ノ猶太人目覩セサ

ルナシ我レ衆ノ前ニ於テ巴録ニ告ケテ曰ク萬有ノ主以色列族ノ上帝耶和華曰ク田ヲ贖フニ簡ノ證ヲ為スアリ其一ハ絨シ以テ印シ其一ハ則チ否ラス爾チ之ヲ取り瓦器ニ藏シ之ヲ存シテ久キニ至レ蓋シ我カ萬有ノ主以色列族ノ上帝耶和華曰ク人斯土ニ返リ其宅第園圃田疇以テ復タ得ヘシト○予更ニ今本傳ノ欺騙ヲ喋々駁論スルヲ須ヒス看者自ラ其非ヲ知ラン只理ニ就テ之ヲ云フニ予カ責ムハキハ僧侶ト注疏者ナリ何トナレハ此ノ如キ偽説ヲ宣揚シ人民

ラシテ昏霧ノ中ニ墮セシム予經典ヲ讀ム心ヲ宗教ノ信者ト共ニ措ク能ハス蓋シソヒストリ虚説ヲ講談ハ彼徒所據ノ地トシタルカ故ナリ予ハ只實事ヲ語ラントス若夫實ト稱スル者反テ虚ナルトキハ之ニ根據スル所ノ者ハ忽チ顛覆シテ欺妄トナリ其説全ク真ヲ失フニ至ル故ナリ看官請フ造物主ヲ信セヨ必ス一身ノ康寧ヲ保全スルヲ得ン然リト雖トモ若シ彼經典ト稱スル書ヲ信セハ稗官小説ノ戲筆ヲ見テ之ヲ敬崇シ之ヲ信奉スルニ同シ予今我カ論スル

所ノ主意ニ却説ス、シ○撒加利亞書中又想像
 ト妄心ヲ以テ銀片ヲ陶人ニ與ヘシコトヲ記シ
 タリ是田ト陶人トヲ誤ルカ如ク其文ノ本傳ノ
 事實ト乖反スル固ヨリ言ヲ待タス若シ之ヲ認
 メテ預言トスルモ己ニ前ニ引ク所ノ耶利米書
 ノ文ニ比スレハ更ニ多ク本傳ト相應スルアル
 ヲ知ラス即チ左ニ原文ヲ掲ク○撒加利亞書第
 十一章第七節ニ曰ク先知曰ク將サニ殺サント
 スルハ羊ハ甚タ哀レムヘシトナス我レニ杖ヲ
 執ル一ヲ恩寵ト曰ヒ一ヲ維繫ト曰フ而レテ斯

ノ羊ヲ牧スル一月ノ間余三牧ヲ絶テ牧人予ヲ
 棄ツ余痛ク之ヲ疾ム我レ曰ク必ス爾ヲ牧セ
 ス死スル者ハ我レ其死ニ聽カス絶ツ者ハ我レ
 其絶ツニ仕カス其餘自ラ相殘食スルモ亦其然
 ルヲ聽ルス昔シ我レ杖アリ厥ノ名ハ恩寵今斯
 杖ヲ折リ民約ヲ毀ルノ徴ト為サンスノ時ニ當
 ルヤ斯ノ杖已ニ折ル我レニ從フノ羊已ニ困苦
 ニ遭ヘハ則チ言フ所ノ確然トシテ耶和華ノ命
 慮レカラサルヲ知ラン○我レ曰ク爾チノ意ニ
 合ナハ、我レニ給スルニ値テセヨ否サレ

ハ則チ已メヨ是ニ於テ三十金ヲ權カリ我レニ
身ヘ以テ我カ値ト為ス耶和華我レニ告ケテ曰
ク爾チ人ニ傭ハル其價何ツ庶ナル之ヲ陶人ニ
委スル可ナリト我レ遂ニ三十金ヲ取り耶和華
ノ殿ニ擲チ以テ陶人ノ得ル所トナル我レ又杖
アリ厥ノ名ハ維擊我レ遂ニ之ヲ折ル猶太以色
列ノ二族絶交ノ徴タリ

ウイストンノ舊約書ヲ論セシ言アリ予カ既
ニ掲ケシ撒加利亞ノ文ハ一百年代寫本一經
典ニハ耶利米ノ書中ニ在リ故ニウイストン

曰ク此ノ如クナルモ新約ノ為メニ幸ヲ望ム
能ハス然レトモ舊約ノ為メニ害トナラサル
コトハ保スヘカラス何トナレハ予カ記載ス
ル如ク以賽亞書中ニ於テ作者ノ杜撰疎漏ト
ル種々ノ散文ヲ編輯セルカ故ニ歴史ト年代
トヲ區畫スルヲ得ス是他ナシ編者暗昧ニシ
テ菽麥ヲ辨セス其攙入スヘカヲサレ所ニ攙
入セリ例ハ古列ノ事ヲ以賽亞書ニ攙入セ
シカ如シ以賽亞豈其死後一百五十年ヲ經テ
世ニ出タル古列ノ事ヲ其書中ニ記スルヲ得

ンヤ○ウイストンハ文學ニ鍊達セシ人ニテ
 殊ニ化學ニハ太タ長セリ又算學ヲ以テ名ヲ
 當時ニ知ラルカングレীগノ大學校ニ於テ
 算學ノ教師タリ彼レ舊約書ヲ主張レテ著ス
 ル所ノ書若干卷アリ然ルニ先知カ耶蘇ヲ預
 言セシニ就テ稍舊新二約書ノ真ヲ疑フニ至
 リ遂ニ之ヲ非斥シテ著セル書アリ蓋シ豁然
 トシテ其書ノ欺偽ナルヲ辨知スルハ深ク之
 ヲ檢覈スル人ニ局リ恍乎トレテ真妄ヲ辨セ
 サルハ厚ク之ヲ信崇スル人ニ止マレリ○ウ

イストンハ久シク經典ヲ正ナリトスル見ヲ
 守株シテ若干ノ書ヲ著ハセシ後チ前ニ反ス
 ル論ヲ以テ著作セシニ因テ刑セラレタリ此
 ニ於テスウフトカチトントウイストンノ二
 人ヲ評セル詩アリ曰ク「賢徳ノ長タルガトシ
 姦惡ノ魁タルウイストン」ト然ルニスウフト
 ハ多ク世ノ賢哲ト交ハリボリンブルクノ僧
 正其他經典ヲ信スル人ト善キカ故ニ彼レ真
 ニ經典ヲ主張スル為メニウイストンヲ罵リ
 シヤ或ハ全クウイストンヲ非斥シテ云ヒシ

言ナリヤ孰レカ是ナルヲ決知スル能ハスト
 雖トモスウマトノ人タルヲ以テ推考スレハ
 二說中稍前ノ經典ヲ主張スル為メナラント
 スルヲ以テ當レルニ近カシトス
 此氣脉ナキ駄舌ノ語ハ首尾整ハス恩寵維繫ト
 稱スルニ杖ハ魔巫ノ談ニ類似シテ尚ホ善キ價
 直ヲ有セス然而馬太ノ書中ニ記スル所ノ事實
 ニハ毫モ關係アルヲ視ス其實ハ全ク相反對セ
 リ假令ハ銀貨三十片ハ其何ノ用ニ供スルヤヲ
 記セス只之ヲ値ト云ノミハ是レ物ニ値ハスル

ノミ又其時ノ語ニ從ハ耶和華之ヲ懲懲シ
 而シテ其貨幣ヲ以テ耶和華ノ殿ニ擲チ陶人ニ
 與フト本傳耶蘇ト猶太トノ事情ヲ記スルニ從
 ハ銀貨三十片ハ血價ニレテ之ヲ庫ニ貯フル
 トキハ反テ神ノ罪ヲ蒙ルト云フ此ノ如ク互ニ
 反對シタル者ナリ○其他此猶太ノ事ニ就テハ
 甚シク反對セシ談アリ即チ使徒行傳ニ由レハ
 猶太ハ悔心ヲ生シ自ラ其金ヲ以テ田ヲ購フト
 アリ祭司諸長ニ反キシト云ハス經典ノ注疏者
 ハ務メテ此相違ヲ會通セント欲シテ種々笑フ

一キノ辨解ヲナセトモ中ニ於テ一モ取ルヘキ者ヲ見ス○使徒行傳第一章第十六節ニ曰ク兄弟乎昔レ聖神大關ノ口ヲ以テ耶蘇ヲ引執スル猶大ヲ預言セリ其經己ニ應ス（大關ハ猶大ニ就テ一語モ預言セス次ノ十七）夫レ斯ノ人猶大ヲ固ヨリ我ト同列ニレテ共ニ此職ニ任ス指スル者ナリ○同第十八節ニ曰ク乃チ竟ニ不義ノ償ヲ以テ田ヲ購フヲ以テ身休レ腹裂ケ腸流ルト是聖神嘿示ノ宗教ト稱スル新約書ハ神ヲ嘲罵スル者ニ屬セサルカ予其書中此ノ如キ前後

反對彼此矛盾スル文アル神ノ嘿示書ヲ疑怪セサルヲ得ス○予預言ノ第十二條ニ論及セン○本傳第二十七章第三十五節ニ曰ク耶蘇十字架ニ釘セラテ後チ闇シテ其衣ヲ分カツ先知ノ言ニ我カ外服ヲ分チ我カ裏衣ヲ闇セヨト云フニ應スト即チ其言ハ詩篇ノ第二十二篇第十八節ニ出ツ其詩ノ作者（其作者ハ誰ナルヤヲ知ラス何トナレハ詩篇ハ編纂卷ヲナセレ者ニシテ一人ノ著述ニアラサレハナリ）ハ作者上ノ事態ヲ賦セシ者ニテ他人ニ拘ハル事ニアラス且

此詩ヲ作ルニ當リ其發端ニ用ユル所ノ語ハ新約書ノ記者カ耶蘇ノ事ヲ記スル体ニ彷彿タリ曰ク我レノ上帝我レノ上帝何ヲ以テ余ヲ遺ルルヤ其神ニ禱請スルコトアル人ハ假令此ノ如キ言ヲナスモ其宜キヲ失ハサランカ然レトモ此語ヲ以テ神ノ口ヨリ出ツル者トセハ甚ク妥當ナラス○此作者ハ詩中ニ於テ自身ノ零丁タル形状鬱陶タル思想ヲ描キ出セシ口吻ナリ彼レ固ヨリ預言セシニハアラス唯其身ノ困艱ヲ歎セシノミ彼レ四面皆敵ニシテ種々慘刻ナル

待遇ヲ受クルノ忍ビ難キヲ示サンカ為ニ謂フアリ曰ク第十節彼レハ敵徒一我カ外服ヲ分チ我カ裏衣ヲ闔スト此言ヤ現在ノ時ヲ示ス而シテ我カ衣服スラ敵徒ノ争テ奪却分取スル所トナルト云意ナリ其他衣服ト云フ語ノ上ニ我ノ字ヲ冠スルトキハ其衣服ハ彼レカ所有物ナル義ヲ著ハス然ルニ耶蘇ハ一モ私有品ナキ筈ナリ何トナレハ新約ノ作者耶蘇ノ言トシテ記シタル語アリ曰ク路加傳第九章狐狸ハ穴ヲ有シ飛鳥ハ巢ヲ有ス惟人ノ子ハ首ヲ枕ヲスルノ所ナ

キナリト○且夫将来ニ及ンテ起ルヘキ事ヲ告
 クル為メニ神預言者ノ口ヲ假リテ傳ヘレ者ト
 想像スルトキハ偶然ノ事實或ハ之ニ随テ生ス
 ル所ノ争競或ハ舊衣ノ分不其他瑣末ナルコト
 ヲモ神ハ此ノ如ク綿密ニ指示スル者ナリトス
 ルハ神ノ神タルヲ知ラサル者ナリ此ノ如キ言
 ハ真ニ神ヲ信崇スル思想ヲ妨害スル者ニ屬ス
 ○假令其カハ以テ能ク為レ得ヘキモ意以テ為
 スヘカラストスル者ハ預言（若レ此ノ如キ者
 アリトセハ）ノ本分ニアラス何トナレハ其語

中ニ神力ヲ有シ且神威アルノ證トキ故ナリ夫
 神ハ人ト異ナリ故ニ神ノ之ヲ為シ或ハ為サシ
 トスル者ハ之ヲ行ヒ或ハ之ヲ統理スル固ヨリ
 人カノ限界外ニ在リ若夫或ハ人ヲ殺スニ當リ
 其衣ヲ分タント欲シテ或ハ争ヒ或ハ下ラス等
 ノコトアルモ之ニ由テ預言ニ應ストシテ神ノ
 嘿示ヲ口實トスルニ於テハ最モ笑フヘキ意匠
 ナリ○前ニ既ニ檢索セシ章中ニ予其詐偽ナル
 ヲ表掲セリ今ヤ既ニ本傳所載ノ預言ト稱スル
 者ヲ論ヒ終レリ讀者此ニ由テ神ヲ卑視シ人間

ノ道理ヲ茅塞スル者アルヲ見ヨ○本傳結尾ノ
 章ニ曰ク耶蘇ノ十字架ニ死スルヤ地震ヒ磐裂
 ケ墓啓キ而シテ既逝ノ聖其身復々起テ墓ヲ
 出ル者多シト馬可傳ニ曰ク日中ヨリ末ノ終リ
 一、至ルマテ徧地晦冥スト此等ノ事實ニ關シテ
 預言セシ者ナシ然レトモ若シ此事實ニ在リシ
 ナラハ預言スヘキニ適シタル者ト謂ツヘシ蓋
 シ神ヲ除クノ外此ノ如キ事ヲ前知スルヲ得サ
 レハナリ實ニ此ノ如キ預言ナクシテ舊衣ヲ分
 ツ預言アリ畢竟前ノ如キ妖凶アリシニアラス

故ニ知ル本傳ハ徹頭徹尾小説ニシテ欺詐タル
 ヲ免レサルコトヲ 予今聖馬可ノ福音傳ト稱
 スル書ニ論及セントス

道理之世卷七

終

